

ESC2025 マドリード紀行

医師 12 年目にして、初めて海外学会発表の機会をいただきました。舞台はヨーロッパ心臓病学会（ESC）、場所はスペイン・マドリード。発表形式はポスターでしたが、私にとっては非常に大きな挑戦でした。今年のゴールデンウィーク明けにアクセプトの通知を受け取ったときの驚きは、今でも鮮明に私の記憶に残っています。医局長から「出してみたら？」と軽く背中を押していただいたものの、まさか通るとは夢にも思わず、「やってしまった…」というのが正直な第一声でした。まるで宝くじに当選したような、嬉しいような困ったような複雑な心境でした。10 年以上海外に出ておらず、英語、特に英会話に自信のない自分が、果たして発表できるのか。AI 翻訳を頼りに準備を進めながらも、不安は募るばかりでした。逡巡しながらも「せっかくの機会だから」と周囲の助言に押され、10 年ぶりにパスポートを新調。気づけば出発の日是目前に迫っていました。

いざ、情熱の国へ

当日は羽田からロンドン・ヒースローを経由し、マドリード・バラハス空港へ。乗り継ぎでは「本当にマドリードに着けるのか？」という不安と期待が入り混じりました。街に降り立った瞬間、まさに「情熱の国」の空気に包まれました。気温は高かったものの湿度は低く、日本の蒸し暑い夏とは異なる爽やかな暑さ。幸運にも滞在中は暑さが和らぎ、快適に過ごすことができました。宿泊先のホテルでは、便座の高さとウォッシュレットがないことが、小さな国際文化の違いを実感する第一歩でした。日本の快適すぎる設備に慣れきった身としては、これもまた貴重な体験でした。

学会での洗礼

肝心の学会発表はというと、改めて自分の未熟さと「英語で伝える」ことの難しさを痛感しました。海北教授が常々おっしゃる「0 を 1 にする」という境地には到底届かず、せいぜい「0.1」くらいだったかもしれません。質問を受けた際の私の英語は、「ジャパニーズ・イングリッシュ」にも満たない英語力でしたが、相手の先生は（たぶん）優しく「You came from far away」と声をかけてくださいました。なにはともあれ、国際学会の場に立ち、世界中の研究者と触れ合う経験は、これまでにない刺激となりました。

マドリード探訪記

もちろん、学会の合間には観光も堪能しました。バル巡り、情熱的なフラメンコ、プラド美術館をはじめとする本場の美術館、そして古都トレドの街並み。どれも素晴らしく、異文化に触れることで自分の中の視野が大きく広がった気がします。

振り返りと感謝

4泊6日という短い滞在でしたが、学術的にも人生経験としても、これまでにない濃密な時間を過ごすことができました。英語力の未熟さを痛感した一方で、国際学会への参加はこれまでにない刺激となり、「もっと能動的に自分の考えを発信したい」と心から思える貴重な体験でした。

最後になりましたが、このような貴重な機会をお与えくださり、発表に至るまでご指導いただいた海北教授、松浦医局長をはじめ、道中や不在中にご支援くださった先生方に心より感謝申し上げます。また、妻とスペインの街並みや文化を共有できたことも、私にとって大きな喜びでした。私を温かく見守り、時には笑いも提供してくれた妻にも深く感謝しています。この経験を糧に、今後はもう少し堂々と発表できるよう、日々研鑽を積んでまいります。次の機会には「0.1」ではなく、せめて「0.5」くらいには成長していきたいものです。



